



暗号資産の仕訳チートシート：標準的な仕訳を1ページにまとめました

暗号資産の活動の大半をカバーする5つの仕訳：購入、処分、暗号資産での収入、内部転送、ガス代。それぞれを借方・貸方のペアで示します。ここでの勘定科目名は汎用的なもので、実際の使用前に独自の勘定科目表にマッピングしてください。数値はあくまで例示です。

CryptaCount

www.cryptacount.com

General information, not accounting, legal or tax advice

暗号資産の仕訳チートシート：標準的な仕訳を1ページにまとめました

暗号資産の活動の大半をカバーする5つの仕訳：**購入**、**処分**、**暗号資産での収入**、**内部転送**、**ガス代**。それぞれを借方・貸方のペアで示します。ここでの勘定科目名は汎用的なもので、実際の使用前に独自の勘定科目表にマッピングしてください。数値はあくまで例示です。

このシートの読み方

以下の勘定科目名は**汎用的**です：デジタル資産、現金、デジタル資産の実現損益、暗号資産収入、ネットワーク手数料。実際の勘定科目表では独自の名称を使用し、デジタル資産をトークンやウォレット、目的別に分割することもあります。各仕訳を転記前にマッピングしてください。仕訳の構造は変わりません。変わるのは勘定科目のラベルのみです。

すべての仕訳はバランスが取れています。暗号資産の仕訳がバランスしない場合、通常の原因は、手数料の計上漏れ、原価基礎の減額漏れ、または内部転送が片側のみで計上されたことです。

1. 購入

デジタル資産をトークンのコストと取得手数料の合計で借方記入します。**現金**（またはステーブルコインで決済した場合はステーブルコイン勘定）を支払総額で貸方記入します。取得手数料は費用化されずに**原価基礎に資本化**されます。つまり、後日の実現利益を減らすことになり、当期の損益計算書には影響しません。

勘定科目	借方	貸方
デジタル資産（コスト＋取得手数料）	X	
現金またはステーブルコイン		X

2. 処分

現金を正味収入（総収入から処分手数料を差し引いた額）で借方記入します。**デジタル資産**を消費した原価基礎（コストベースメソッドが選択するロットの基礎）で貸方記入します。差額で仕訳のバランスを取ります：収入が基礎を上回る場合は**実現利益**の貸方、下回る場合は**実現損失**の借方です。

勘定科目	借方	貸方
現金（総収入 - 処分手数料）	正味収入	
デジタル資産（消費した原価基礎）		基礎
デジタル資産の実現利益		差額（利益の場合）
デジタル資産の実現損失	差額（損失の場合）	

計算例

原価基礎100の資産を400で処分したとします。仕訳は、現金400を借方、暗号資産を簿価100で貸方（消去）、**実現利益300**を貸方としてバランスを取ります。もし収入が60だった場合、同じ構造で**実現損失40**が借方に計上されます。これらの数値は例示です。

勘定科目	借方	貸方
現金	400	
デジタル資産		100
デジタル資産の実現利益		300

どのロットが消費されるか、つまり利益がいくらになるかは、事業体が採用し文書化した[コストベースメソッド](#)によって決まります。すべての処分に一貫して適用してください。

3. 暗号資産での収入

ステーキング報酬、マイニング収入、エアドロップ、支払いや給与として受け取ったトークンは、新たな価値を帳簿にもたらしめます。**デジタル資産**を受領時の価値で借方記入し、同じ金額を対応する**収入勘定**に貸方記入します。

勘定科目	借方	貸方
デジタル資産（受領時の価値）	X	
暗号資産収入（ステーキング、マイニング、エアドロップ、サービス）		X

重要なのは次の点です：その受領時の価値がその資産の**原価基礎**になります。後日トークンを処分した際、実現損益として計上されるのは受領時からの値動きのみです。基礎をゼロにすると、同じ価値が収入と利益の二重計上になります。

4. 事業体自身のウォレット間の転送

受取ウォレットの勘定を借方記入し、**送金ウォレット**の勘定を貸方記入します。両方とも簿価で行います。**損益は発生しません**。資産が移動しただけであり、処分は行われていません。

勘定科目	借方	貸方
デジタル資産、受取ウォレット（簿価）	X	
デジタル資産、送金ウォレット（簿価）		X

これは暗号資産の帳簿が誤る最も一般的な原因です。単純なインポートでは、あるアドレスからの送金と別のアドレスへの入金を見て、売却と購入として計上してしまいます。その結果、**実際には発生していない実現利益**が計上され、損益計算書が誤り、原価基礎が原因なくリセットされます。自社ウォレットの移動を明示的に識別し、ウォレット台帳で証跡を残してください。

5. ガス代とネットワーク手数料

ネットワーク手数料は、関連する資産のコストに**資本化**するか、**費用処理**するか、取引の目的と事業体の文書化された方針に応じて異なります。取引ごとに判断するのではなく、方針を一度決めて適用してください。

勘定科目	借方	貸方
ネットワーク手数料、または資本化する場合はデジタル資産	手数料	
デジタル資産、決済に使用したネイティブトークン		手数料（簿価）
デジタル資産の実現損益	差額	差額

二次的な影響に注意してください：ガスは通常ネットワークの**ネイティブトークン**で支払われるため、手数料の決済自体がそのトークンの小さな**処分**になります。トークンは簿価で減少し、手数料は放棄した価値で測定され、差額は**実現損益**になります。スプレッドシートではこれが頻繁に見落とされ、繁忙期には累積します。

転記前の確認事項

- 上記の汎用勘定を自社の勘定科目表に一度マッピングし、マッピングを一元管理する。
- 会計方針でコストベースメソッドを確認し、すべての処分に例外なく適用する。
- 自社ウォレット間の転送は、利益計上後ではなく、**分類前にフラグを立てる**。
- ロットレベルの計算を各実現損益の背後に保持し、レビューが再計算できるようにする。

- 総勘定元帳には要約された期間仕訳を転記し、その背後にある取引明細を保持する。

各仕訳の完全な仕組みについては、[暗号資産の仕訳ガイド](#)を参照してください。単一の仕訳をすばやく作成するには、[暗号資産の仕訳ジェネレーター](#)を使用してください。CryptaCountは、90以上のブロックチェーンネットワークと100以上の取引所・ウォレットコネクターにわたってこれらの仕訳を自動生成し、QuickBooks、Xero、NetSuite、Sage、Zohoにプッシュします。

Disclaimer. 一般的な情報であり、法的、会計、税務に関するアドバイスではありません。勘定科目や処理は、事業体のフレームワークと方針に従い、資格のあるアドバイザーに確認してください。



Put your crypto books on a real sub-ledger at app.cryptacount.com

© 2026 CryptaCount. All rights reserved.